

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣桜高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和4年2月8日(火)
- 3 開催場所 書面開催
- 4 参加者

会長	原 善隆	大垣市墨俣地域事務所 所長
副会長	堀 あゆ美	岐阜県社会福祉協議会 生活支援部 主査
委員	高木 久	墨俣一夜城(歴史資料館) 館長
	土岐 朝之	特別養護老人ホームあすわ苑 施設長
	横井 圭子	墨俣児童館 館長
	浦野 真由美	育友会長
学校側	安田 ゆかり	校長
	柴田 幸美	教頭
	早野 宏樹	教頭
	長沢 達郎	事務長
	瀬下 裕基	教務主任
	須藤 亜由子	生徒指導主事
	西村 佐英子	進路指導主事
	郷 絵美	家庭部長

5 会議の概要

各分掌の自己評価・学校関係者評価
令和3年度進路状況
部活動及び各種コンクールの成績
卒業研究作品発表会の報告

意見1：ICTの導入と活用により、コロナ禍でも安心して授業が受けられる体制がとられているほか、先生方の指導力も向上し、益々生徒一人ひとりの学力が向上することを期待したい。

意見2：身だしなみの変化や遅刻早退の増加など、ちょっとした変化を見逃さないことが、非行やいじめを未然に防ぐ手段となる。

意見3：校則の見直しは必要であるが、最低限の校則は必要であり、ルールを守る意識を高めてほしい。

意見4：就職、進学を問わず、基礎学力は必要である。

意見5：各自の目標(進むべき道)の設定をはっきりとさせ、目標に向けて意欲的に学習できるようにするとよい。

- 意見6：コロナ禍が続いていることで、就職、進学ともに、例年のような指導が難しくなっているのではないかと。日頃の授業を大切にしながら、生徒との対話を常に行い、多くの進路情報を提供し、生徒が自ら取り組むような雰囲気づくりをする必要がある。
- 意見7：すぐメールやHPでの情報提供等、正確な情報を迅速に提供することは基本でありながら簡単ではない。システム導入時は関心が高いが、徐々に機能が鈍くなり活用が少なくなると思われる。定期的な見直しを行い、より良い方法で継続してほしい。
- 意見8：学校行事は、クラスの仲を深め普段話す機会の少なかった友人などと親しくなるきっかけとなる。数々の行事が中止や縮小になることは残念であるが、部活動などで成果を残されたことは大変よい。
- 意見9：コロナの感染状況にもよるが、活動延期または中止になったものが多く、育友会活動を経験し引き継いでいくことが難しくなっているのではないかと。形を変え、育友会行事を残していかなければ、育友会の在り方が問われ、存続する意義を問われてしまう。できることから始めていくとよい。
- 意見10：卒業研究作品発表会を参観し、3年間の集大成にふさわしく生徒一人ひとりの学びが伝わる発表会であった。日々の授業、検定やコンクールへの挑戦など積み重ねの大切さが、後輩に引き継がれていくことを期待する。

6 会議のまとめ

今年度は第1回、第3回の学校運営協議会が新型コロナウイルス感染拡大を受け、書面開催の形式とした。第3回で予定していた授業参観が実施できなかったが、卒業研究作品発表会は参観し生徒の様子や学習の成果を見ることができた。委員より得られた意見を職員会議等で周知し、今後の教育活動に生かしていきたい。